

杉戸町立杉戸中学校 令和元年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	基礎基本を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の約束10か条」による基本的な学習規律の確立・定着 漢字・計算・英単語等の小テスト実施による基礎学力の定着 家庭学習の習慣化(生活記録・家庭学習ノートの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の約束10か条」の定着状況(生徒アンケート) 漢字力、計算力、単語力テストの結果の伸び ノートの活用状況 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の約束10か条」のアンケート結果より、授業に向かう姿勢・意欲は大変良いが、「できる(わかる)まで粘り強く」(GRIT)できる生徒が少ない。積極的に質問できる人間関係づくりが課題である。 家庭学習ノートは、全学年合わせて7割の提出状況だった。1年8割、2年7割、3年6割程度で、小テストに向けた単語や漢字練習に利用する生徒が多いが、それらが身に付いているかは検証中である。また、長期休業を利用した課題テストや授業における小テスト等を実施した。英語については、予習ノートを作る課題を単元ごとに行った。 「杉戸町授業スタンダード」を基に、目標の明確化、授業パターンや振り返り活動が定着した。教科間で多少の違いは生じるが、生徒にとっては統一感を持つことで、困惑せずに授業に参加できたと考えられる。また、「主体的・対話的で深い学び」の授業展開を教職員が意識的に行ったことで、グループ学習や話し合い場面を充実させることができた。それにより聴く姿勢がよくなり、自分の考えを人に伝える力も着実に伸びている。振り返り(作文)では、「気づき」を含めたものが増えている。 「県学調」の結果より、全ての教科で学力の伸びが見られた。しかし、伸びた生徒と伸びなかった生徒の割合で見ると、3年の英語を除いて、約30%の生徒に伸びが見られなかった。2年においては国語・数学ともに、伸びの見られなかった生徒が30%を上回ってしまった。各教科において、課題を洗い出し、それを重点的に、毎授業で繰り返し取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字力、計算力、単語力テストを計画的、継続的に実施するとともに、未定着生徒への支援を根気強く行っている。特に新3年生に対しては、基礎的な内容の指導を粘り強く行う。また、指導法の改善に努め、「主体的・対話的で深い学び」の授業展開により、中位・上位層の伸びを図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の約束10か条」アンケートの結果で、3年生の自己評価が2学期に上がったことに生徒の成長が伺える。 基礎学力定着に向けた濃く、数、英の各教科における取組の成果が伺える。 アンケートより、授業は真面目に取り組んでいるが家庭学習について生徒と教職員の評価に差があるので、この差が縮まるとよい。 朝読書の通年化はととてもよい。 「授業振り返りシート」の活用で学んだことをその日のうちにまとめられるように。 数学Aの改善策を示すこと。国語は読解力が欠如しているのだろうか。 2年生が県平均を下回っているようなので学習指導が必要なのではないか。 昨年の2学期制から3学期制に戻した学力面の成果を示してほしい。
	学習指導を改善する。	<ul style="list-style-type: none"> 杉戸町授業スタンダードを基にした効果的な授業の実践 「主体的・対話的で深い学び」への授業改革 県学力学習調査、全国学力学習調査の分析に基づいた学習指導の工夫・改善 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業の改善状況(指導案の内容・生徒アンケート) 分析結果に基づいた具体的な指導の実施状況 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「生活の約束10か条」のアンケート結果では、全学年合計では、全ての項目において数値目標AB90%以上を達成した。1学年においては自己評価が大変厳しく、「挨拶」「規則正しい生活」が80%以下となり、2学年は「挨拶」、3学年は「時間前着席」に課題が残った。挨拶については、学校全体の生徒協議が毎月1回開催され、専門委員長と学級委員が、挨拶運動の企画運営や委員会活動の改善策等話し合っている。学校行事では、学級委員や実行委員が中心となり、目標や練習計画を立て、担任と生徒が一体となって活動することができた。 道徳科の授業実施は、全学年において、2学年の道徳担当がローテーションを組み、計画的に進めた結果、ローテーション授業20回、担任による共通課題11回を実施することができた。学年全体で生徒を見取ることで、道徳の実践力をより高められた。 社会的スキル育成のための学級指導を、1、2年は4回程実施した。さらに、全校朝礼の校長講話や学年集会等の学年職員の思いが生徒に届き、「当たり前」のことが当たり前になり、言動に表れている。しかし、課題として残るのが、忘れ物(未提出)であり、家庭の協力も必要と考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活の約束10か条」「学習の約束10か条」の繰り返し指導により、授業規律の更なる定着を図る。 生徒会活動や行事を通して、生徒自身が達成感を味わい、自信へとつながっている。さらなるリーダー育成に取り組んでいきたい。 心の居場所がある学年学級経営により一層層を入れていく必要がある。いろいろな場面で、ソーシャルスキルを高める指導を取り入れていく。また、SC、さわやか相談員との連携をより深め、教育相談部会のより一層の充実を図ることにより、不登校生徒の減少に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権意識向上に取り組んでいる。今後も継続して生徒間の人間関係構築、道徳心の醸成等に取り組んでいただきたい。 スマイル賞は生徒の励みにもなり、杉中生としてプライドを育てる機会にもなっている。 挨拶をきちんとして礼儀正しい。とても素直な生徒が多い。 不登校生徒がまだまだいるのは仕方ないのだろうか。生徒の心の問題なのだろうか。 不登校生徒ゼロに近づけるよう努力してほしい。 人権教育はそのまま継続してほしい。 「豊かな心」は家庭の問題だと思ふ。学校は勉強の仕方を教えてほしい。
豊かな心	基本的な生活習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> めざす生徒像「礼を正し、場を清め、時を守る生徒」「当たり前」の心をやり抜く生徒の育成に向けた学年・学級指導 「生活の約束10か条」による生活習慣の確立・定着 	<ul style="list-style-type: none"> 学年学級指導の状況 生徒会、専門委員会の活動状況 「生活の約束10か条」の定着状況(生徒アンケート) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「生活の約束10か条」のアンケート結果では、全学年合計では、全ての項目において数値目標AB90%以上を達成した。1学年においては自己評価が大変厳しく、「挨拶」「規則正しい生活」が80%以下となり、2学年は「挨拶」、3学年は「時間前着席」に課題が残った。挨拶については、学校全体の生徒協議が毎月1回開催され、専門委員長と学級委員が、挨拶運動の企画運営や委員会活動の改善策等話し合っている。学校行事では、学級委員や実行委員が中心となり、目標や練習計画を立て、担任と生徒が一体となって活動することができた。 道徳科の授業実施は、全学年において、2学年の道徳担当がローテーションを組み、計画的に進めた結果、ローテーション授業20回、担任による共通課題11回を実施することができた。学年全体で生徒を見取ることで、道徳の実践力をより高められた。 社会的スキル育成のための学級指導を、1、2年は4回程実施した。さらに、全校朝礼の校長講話や学年集会等の学年職員の思いが生徒に届き、「当たり前」のことが当たり前になり、言動に表れている。しかし、課題として残るのが、忘れ物(未提出)であり、家庭の協力も必要と考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活の約束10か条」「学習の約束10か条」の繰り返し指導により、授業規律の更なる定着を図る。 生徒会活動や行事を通して、生徒自身が達成感を味わい、自信へとつながっている。さらなるリーダー育成に取り組んでいきたい。 心の居場所がある学年学級経営により一層層を入れていく必要がある。いろいろな場面で、ソーシャルスキルを高める指導を取り入れていく。また、SC、さわやか相談員との連携をより深め、教育相談部会のより一層の充実を図ることにより、不登校生徒の減少に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権意識向上に取り組んでいる。今後も継続して生徒間の人間関係構築、道徳心の醸成等に取り組んでいただきたい。 スマイル賞は生徒の励みにもなり、杉中生としてプライドを育てる機会にもなっている。 挨拶をきちんとして礼儀正しい。とても素直な生徒が多い。 不登校生徒がまだまだいるのは仕方ないのだろうか。生徒の心の問題なのだろうか。 不登校生徒ゼロに近づけるよう努力してほしい。 人権教育はそのまま継続してほしい。 「豊かな心」は家庭の問題だと思ふ。学校は勉強の仕方を教えてほしい。
	人権教育総合推進地域事業の取組を通して、生徒の人権尊重意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 心の居場所がある学年学級経営 ローテーション方式による道徳授業の展開と生徒の道徳性の実態把握により道徳の実践力を高める。 非認知能力の一つであるコミュニケーション力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒とのラポールの形成状況 道徳科に関する生徒の状況(振り返りシート、アンケート等) ソーシャルスキルの定着状況(生徒アンケート) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で、校内の施設・設備の点検を行い、100か所以上の修繕を行った。また、不要物の撤去を3年3回実施し、安全な学習環境づくりを行った。 年度初め、毎学期末毎に、生徒全体に周知しているが、残念ながら後半に入って、入院に至る交通事故発生や地域の方からの苦情が寄せられるなど、安全に対する意識の低下が見られる。 保健体育の授業中の怪我が複数発生した。 保健指導では年3回、う歯治療動告を実施し、う歯治療率は82.3%(昨年度89.9%-昨年89%)だった。また、アンケートでは、ほぼ毎日朝食をとる生徒は88.5%だった。 新体力テストの結果では、1年男女がほぼ全項目で県平均を上回ったが、2年女子が全項目において県平均を下回った。全体としては、県平均を上回った項目が54項目中28項目だった。特に、柔軟性、持久力、瞬発力、投力に課題がある。 部活動では、国のガイドラインに沿って作成された「杉戸中学校部活動に関する基本方針」に則って進めている。「週休2日」と「朝練習なし」がどのくらい成績に影響があるかは検証中であるが、確実に怪我(故障)や体調不良の生徒数は減っている。引き続き、部活動に対する教員、保護者の意識の変革が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 下校時の交通安全に対する声かけを継続してきたい。 学校内の事故・けがの要因を究明し、再発防止に努める。 週3回の保健体育の授業で、毎時間運動量を確保し、「体の動かし方」を丁寧に指導してきたい。 部活動については、生徒及び教員の負担を考え、「杉戸中学校部活動に関する基本方針」の見直しと定着により、より望ましい部活動の運営を図っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 学校課題であった「持久走」が県平均を上回ったことは、体力向上だけでなく諦めず粘り強く取り組むなど精神的な逞しさも成長したと受け止めている。 部活動実績が素晴らしく、生徒並びに教職員が真摯に取り組んだ結果である。 自転車通学者への指導はこれからも厳しくお願ひしたい。 自転車の並列走行を見ることがある。 家庭の問題である。 来年度ロードレース大会がなくなるということだが、再検討してみたい。 部活動について、社会教育団体やスポーツ団体等との連携や意向を考える時期にきているのは、教員の負担も考えて、保健指導について町全体での取り組みの必要性を感じる。
健やかな体	安心・安全な学習環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 静かで落ち着いた生活習慣の確立・定着 自他を大切に安全指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況(アンケート等) 通学時の生徒の状況 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で、校内の施設・設備の点検を行い、100か所以上の修繕を行った。また、不要物の撤去を3年3回実施し、安全な学習環境づくりを行った。 年度初め、毎学期末毎に、生徒全体に周知しているが、残念ながら後半に入って、入院に至る交通事故発生や地域の方からの苦情が寄せられるなど、安全に対する意識の低下が見られる。 保健体育の授業中の怪我が複数発生した。 保健指導では年3回、う歯治療動告を実施し、う歯治療率は82.3%(昨年度89.9%-昨年89%)だった。また、アンケートでは、ほぼ毎日朝食をとる生徒は88.5%だった。 新体力テストの結果では、1年男女がほぼ全項目で県平均を上回ったが、2年女子が全項目において県平均を下回った。全体としては、県平均を上回った項目が54項目中28項目だった。特に、柔軟性、持久力、瞬発力、投力に課題がある。 部活動では、国のガイドラインに沿って作成された「杉戸中学校部活動に関する基本方針」に則って進めている。「週休2日」と「朝練習なし」がどのくらい成績に影響があるかは検証中であるが、確実に怪我(故障)や体調不良の生徒数は減っている。引き続き、部活動に対する教員、保護者の意識の変革が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 下校時の交通安全に対する声かけを継続してきたい。 学校内の事故・けがの要因を究明し、再発防止に努める。 週3回の保健体育の授業で、毎時間運動量を確保し、「体の動かし方」を丁寧に指導してきたい。 部活動については、生徒及び教員の負担を考え、「杉戸中学校部活動に関する基本方針」の見直しと定着により、より望ましい部活動の運営を図っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題であった「持久走」が県平均を上回ったことは、体力向上だけでなく諦めず粘り強く取り組むなど精神的な逞しさも成長したと受け止めている。 部活動実績が素晴らしく、生徒並びに教職員が真摯に取り組んだ結果である。 自転車通学者への指導はこれからも厳しくお願ひしたい。 自転車の並列走行を見ることがある。 家庭の問題である。 来年度ロードレース大会がなくなるということだが、再検討してみたい。 部活動について、社会教育団体やスポーツ団体等との連携や意向を考える時期にきているのは、教員の負担も考えて、保健指導について町全体での取り組みの必要性を感じる。
	健康意識と体力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 園遊き指導や治療動告等にう歯治療の推奨 基本的な生活習慣の習得指導(寝起起床時刻、朝食の摂取等) 体育授業や部活動による体力向上 休養を確保した部活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> う歯治療率(目標95%) 国、県学力学習状況調査の質問紙の結果分析 新体力テストの結果 部活動の活動状況 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で、校内の施設・設備の点検を行い、100か所以上の修繕を行った。また、不要物の撤去を3年3回実施し、安全な学習環境づくりを行った。 年度初め、毎学期末毎に、生徒全体に周知しているが、残念ながら後半に入って、入院に至る交通事故発生や地域の方からの苦情が寄せられるなど、安全に対する意識の低下が見られる。 保健体育の授業中の怪我が複数発生した。 保健指導では年3回、う歯治療動告を実施し、う歯治療率は82.3%(昨年度89.9%-昨年89%)だった。また、アンケートでは、ほぼ毎日朝食をとる生徒は88.5%だった。 新体力テストの結果では、1年男女がほぼ全項目で県平均を上回ったが、2年女子が全項目において県平均を下回った。全体としては、県平均を上回った項目が54項目中28項目だった。特に、柔軟性、持久力、瞬発力、投力に課題がある。 部活動では、国のガイドラインに沿って作成された「杉戸中学校部活動に関する基本方針」に則って進めている。「週休2日」と「朝練習なし」がどのくらい成績に影響があるかは検証中であるが、確実に怪我(故障)や体調不良の生徒数は減っている。引き続き、部活動に対する教員、保護者の意識の変革が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 下校時の交通安全に対する声かけを継続してきたい。 学校内の事故・けがの要因を究明し、再発防止に努める。 週3回の保健体育の授業で、毎時間運動量を確保し、「体の動かし方」を丁寧に指導してきたい。 部活動については、生徒及び教員の負担を考え、「杉戸中学校部活動に関する基本方針」の見直しと定着により、より望ましい部活動の運営を図っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 学校課題であった「持久走」が県平均を上回ったことは、体力向上だけでなく諦めず粘り強く取り組むなど精神的な逞しさも成長したと受け止めている。 部活動実績が素晴らしく、生徒並びに教職員が真摯に取り組んだ結果である。 自転車通学者への指導はこれからも厳しくお願ひしたい。 自転車の並列走行を見ることがある。 家庭の問題である。 来年度ロードレース大会がなくなるということだが、再検討してみたい。 部活動について、社会教育団体やスポーツ団体等との連携や意向を考える時期にきているのは、教員の負担も考えて、保健指導について町全体での取り組みの必要性を感じる。
学校独自	家庭・地域、関係機関との連携を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学年だより、学級だよりの発行による情報発信 学校HPの定期更新による情報発信 区長、民生委員、主任児童委員等の方々と意見、情報交換の場の設定 PTA組織を生かした情報発信、意見交換 地域の人材を活用した教育活動の実施 近隣の幼稚園、小学校、高等学校、特別支援学校との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 各種だよりの発行状況 学校HPの更新状況 意見交換、情報交換の実施状況 PTA組織の活動状況 地域人材の活用状況 異校種との連携状況 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりは毎月発行。学年だよりは2月7日時点で、1年生30号、2年生38号、3年生24号、特別支援学級25号まで発行できた。学級だよりもほとんどのクラスで定期的に発行している。今年度は特に、日々営まれている子供たちの生き生きとした活動が保護者に伝わるよう、あたたかな眼差しで描かれた便りを目指した。 学校HPの更新回数は前年を下回り、情報発信が十分ではなかった。 区長、民生委員、主任児童委員等の方々と意見、情報交換の場を年2回設定し、よりよい学校づくりのための助言をいただくことができた。 PTAとの協力では、年5回の運営委員会の機会をとらえて、学校の教育方針や最新の教育事情についての情報発信、意見交換を行った。また、学校行事に対する多くの協力、夏祭りははじめとしたパトロール活動に協力して取り組むことができた。 地域の人材の協力による授業を実施した。(年金教室、AED講習会、非行防止・情報モラル教室、性教育、デートDV防止教室、立憲式及びふるさと講演会等) 総合的な学習の時間の訪問学習(町内29か所、延べ200名の生徒) 近隣県立高等学校を招いての進路学習会(2校) 幼保小の社会体験チャレンジの生徒受入れ(7園3校50名) 保育実習(中央幼稚園にて第2学年6学級の訪問実習) 	<ul style="list-style-type: none"> 学年だより等により、今後も継続して学校の情報をタイムリーに、子供たちの輝く姿を今後も発信し続けたい。 HPの更新方法を改善する。適材を配置して、日々更新することが当たり前のようにしたい。 新学習指導要領の趣旨について、保護者、地域と共有を図る。 保護者や地域の方々との連携がより密になるよう、学校を公開する機会を拡充させる。 施設や人材のデータベースを構築することで、活用を充実させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや学年だより、HP等を活用した最新情報の発信は、保護者や地域のニーズに十分応えている。 地域や他校種との交流が積極的に実施されており、地域との共有が進められている。 回覧板にて「杉中だより」を見ている。知り合いの方のお孫さんの名が載っていてとても嬉しそうにしていた。 学校だより等保護者に学校の様子がよくわかるので継続を。 学年だより、学級だよりは学年や生徒の様子がよくわかる。教員は大変だと思うが引き続き発行に力を入れていただきたい。 教職員が余分な仕事をしないよう、地域に過敏になりすぎず生徒と向き合ってもらいたい。 アンケートの結果について生徒、保護者、教員の三者の結果がなるべく一致できるように取り組みの充実を。